

阿波野青畝の句碑巡り

高取町には、昭和を代表する俳人阿波野青畝の句碑が5箇所あります。今日は、紙上でその句碑を巡ってみました。本紙を読んで実際に町内を歩いてみてはいかがでしょうか。

虫の灯に 読み昂^{たか}ぶりぬ 耳^こしひ^こ

青畝の生家の中庭にある句碑 大正6年 18歳作

昭和60年3月に甥の橋本二郎氏が青畝存命中に建立

【解説】

幼い頃よりの耳疾でよく耳が聞こえない。秋虫の音を聞きながら本を読みふけている「耳しひ児」それは私な

飯にせむ 梅も亭^{てい}午と なりにけり

夢創館の中庭にある句碑 昭和17年 43歳作

平成12年3月夢創館の中庭に建立

【解説】

日はすでに頭の上にあつて正午になつてゐる証拠だ。なんとなしにひもじい気持ち^{こころ}が催して、飯を食う所がないかと人に問いて、食事をした。

満山の つぼみのままの 躑躅^{つづじ}かな

砂防公園の石畳の庭にある句碑 昭和21年 47歳作

平成11年3月砂防公園に建立

【解説】

これから躑躅の花が、一杯に咲こうとしています。

供^{そな}請^{えい} 眼^{げん}耳^び鼻^び舌^{ぜつ}身^{しん}意^い煮^なしと

長円寺の中庭にある句碑 昭和20年 46歳作

昭和43年12月に長円寺の住職が建立

【解説】

戦時中のこと、長円寺の仏様に供えてあるさつま芋を住職に頂いた。お腹が減つていて、全身で味わつておいしかった。眼耳鼻舌身とは、般若心経にでてくる「無眼耳鼻舌身意」から引用しています。

葛城の山 懐に 寝釈迦^{ねしゃか}かな

中央公園の東屋にある句碑 昭和3年 29歳作

平成16年3月に高取中学校から中央公園に移転

【解説】

郷里の高取からは葛城山がよく見える。寝釈迦の図は、実際には葛城山の山腹にある寺の中にあるが、まるで葛城山腹に寝釈迦が抱かれていくがごとく思える。

